

# 公開講座

会場 6階大ホール

時間 15:15～16:30

## 生活習慣病時代の慢性腎臓病対策 —その狙いと食事療法の役割—

座長 青木 伸雄

(静岡県厚生部理事 (健康づくり担当))

講師 熊谷 裕通

(静岡県立大学臨床栄養学教室教授)

公開講座\*\*\*\*\*

## 生活習慣病時代の慢性腎臓病対策 -その狙いと食事療法の役割-

熊谷裕通

(静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻教授)

主な経歴：1979～1993 浜松医科大学 第一内科医員、助手、講師  
1987～1989 米国NIH老年病研究所 客員研究員  
1993～2006 静岡県立大学 食品栄養科学部 助教授  
2006～ 静岡県立大学 食品栄養科学部 教授

専門分野：臨床栄養学、内科学（腎臓病学）

学 位：医学博士（1986年）

資 格：日本内科学会認定医、日本腎臓学会認定専門医・指導医  
日本病態栄養学会認定専門医

近年、これまで慢性腎炎・糖尿病性腎症・慢性腎不全などとして分類されてきた疾患を、慢性腎臓病（chronic kidney disease: CKD）という新たな枠組みとして定義し、早期発見や予防から治療に至るまで一貫した総合的な診療を行う取組がなされている。なぜ、今、この新しい概念を導入したのであろうか？それは、全国に400万人いるといわれる慢性腎臓病患者に対する医療を、数少ない腎臓専門医だけでなく他診療科の医師やかかりつけ医、さらには社会全体で展開する必要があるためである。慢性腎臓病の診療は、これまで各種腎疾患に対して行われてきた診療方針と基本的には異なるものではないが、早期からリスクを軽減する対策に力が入れている。

慢性腎臓病治療の第一の目的は、末期腎不全に至ることを防ぐ、あるいは末期腎不全に至る時間を遅らせることである。第二の目的は、慢性腎臓病患者では心筋梗塞や脳卒中など心血管系疾患の発症頻度が高いので、慢性腎臓病を治療することによって心血管系疾患の発症・進展を抑制することである。これらの目的を達成するためには、生活習慣の改善、高血圧や糖尿病などのリスクファクターに対する治療、慢性腎臓病の原因に対する治療、低たんぱく食事療法、尿蛋白を減少させる治療、腎性貧血や尿毒症毒素に対する治療などを集学的に行うことが必要である。低たんぱく食事療法については、末期腎不全への進展抑制に加え、心血管疾患の発症を抑えるという新たな目標を達成するためには、低たんぱく一辺倒の従来の考え方で良いのか今後検討していく必要がある。

# いきいき東海

(全国いきいき公衆衛生の会東海支部)

## サテライト集会

会場 4階第1研修室

時間 16:40～18:10

子ども、働き盛り、高齢者の  
全てを巻き込んだ

ポピュレーションアプローチを目指して

世話人 加藤 恵子 (愛知県健康福祉部健康対策課)  
犬塚 君雄 (愛知県尾張福祉相談センター)

### 事例提示

- 1 特定健診・保健指導とポピュレーションアプローチ  
～全国の事例紹介～  
尾島 俊之 (浜松医科大学健康社会医学講座)
- 2 地域で支え、地域が動く子育て支援を目指して  
～母子保健の現場から～  
大串 文子 (東海市 市民福祉部保健福祉課)

## ワークショップ

# 子ども、働き盛り、高齢者の全てを巻き込んだ ポピュレーションアプローチを目指して

### 特定健診・保健指導とポピュレーションアプローチ ～全国の事例紹介～

尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）

特定健診・保健指導により、最終的にきちんと成果を上げる保健事業が求められています。そのためには、標準的なプログラムを淡々と  
言われるままに実施するのではなく、地域の特性に合わせて創意工夫  
をすることが必要でしょう。また、特定保健指導への参加を希望しな  
い人や、若年者での生活習慣の乱れも大きな問題です。このようなこ  
とに対応するには、ポピュレーションアプローチとも融合しながら、効果的に生活習慣病  
を予防し、人々の健康・幸福を向上させることを考える必要があるのではないのでしょうか。



私自身が関わりました日本看護協会の生活習慣病予防活動支援モデル事業（先駆的保健活動交流推進事業、<http://www.nurse.or.jp/home/publication/index.html#etc>）や、日本公衆衛生協会の「ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの効果的な融合に向けて」（リーダー 岩室紳也（地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター）、<http://www.healthpromotion.jp/>）の研究成果を踏まえつつ、生活習慣病対策やポピュレーションアプローチのさまざまな事例を紹介したいと思います。

### 地域で支え、地域が動く子育て支援を目指して ～母子保健の現場から～

大串 文子（東海市 市民福祉部保健福祉課）

高度経済成長時代の中で育ってきた世代が親の中心になってきています。学歴や所得に  
価値観が置かれ、遊びの中心はテレビ、ゲームになり子供同士の摩擦がない一方、いじめ  
の存在という緊張感の中で思春期を過ごしてきています。そして現在、親となって初めて  
子どもに接し、どうしていいか戸惑いながらの子育てをしています。親自身、コミュニケ  
ーションがうまくとれず孤独感が強く、参考になる子育てのモデルやイメージもないまま  
出産し、子育てに直面しています。彼らを支えているものは、長年の経験から培われた知  
恵ではなく、育児情報誌やインターネット情報が中心です。しかし、場合によっては科学的、  
または経験則での裏づけがないものもあります。

そんな中、子育て支援が充実してきました。孤立する家庭は減少しましたが、母親自身

ケアされる立場になり、子どもを見ていない、向き合えない、生活を仕切れない様子が目立つようになりました。日々の母子保健業務の中、課題を感じています。まずは何かできることから、と動き始めました。まだまだ課題は山積しています。子育ての問題は社会や地域の問題だと感じています。皆さんと一緒に考えたいと思います。

## いきいき東海について

世話人代表

加藤 恵子（愛知県健康福祉部健康対策課）

メーリングリスト世話人

犬塚 君雄（愛知県尾張福祉相談センター）

全国いきいき公衆衛生の会は、全国の公衆衛生従事者がいきいきとした公衆衛生活動を推進させ、人々の健康づくりと公衆衛生の発展に寄与することを目的に、全国の保健所や市町村職員等が参加して、昭和 63 年に発足した会です。以来、毎年、サマーセミナー、日本公衆衛生学会での自由集会、メーリングリスト及び会報での情報交換を行っていて、現在の会員数は約 500 人です。今年のサマーセミナーは、「住民とともに、みる、つなぐ」をテーマに、8 月 9 日(土)～10 日(日)に、栃木県小山市で開催予定です。また、日本公衆衛生学会自由集会は 11 月 6 日(木)に福岡市で開催予定です。詳しくは、全国いきいき公衆衛生の会ホームページ <http://homepage3.nifty.com/iki-iki/> をご覧ください。

いきいき東海は、平成 14 年に名古屋市でサマーセミナーが開催されたことを機に発足しました。以来、年 1～2 回の勉強会とメーリングリストでの情報交換を行っています。いきいき東海メーリングリストへの参加ご希望の方は、[toukai-sewa@yahoogroups.jp](mailto:toukai-sewa@yahoogroups.jp) 宛に、お名前、ご所属、メールアドレスをお知らせ下さい。メールのタイトルに「メーリングリスト参加申込」とお書き下さい。

全国いきいき公衆衛生の会及びいきいき東海への大勢の参加をお待ちしています。なお、今回のサテライト集会及び情報交換会は、入会頂かなくても、どなたでもご参加頂けます。



## 情報交換会

ワークショップ終了後の 18:30～20:30(予定)に、場所を移して情報交換会を行います。仲間同士のネットワークを広げて、悩みや経験談を交換し合いましょう。参加費 5000 円を予定しています(ワークショップのみの参加は無料です)。

参加ご希望の方は、7 月 22 日までに [toukai-sewa@yahoogroups.jp](mailto:toukai-sewa@yahoogroups.jp) 宛に、お名前、ご所属をお知らせ下さい。メールのタイトルに「情報交換会参加申込」とお書き下さい。

現地世話人 尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）